



甘楽

甘楽町の日本名水百選「雄川堰」の原水を商品化するプロジェクト委員会が3日、発足した。行政や教育、民間が連携する。初めての会議が同日、町図書館で開かれ、高崎商科大と同短期大学の学生が考えた商品名とラベルデザインの候補案が複数発表された。写真。商品化するのは、同町の秋

「雄川堰」原水 商品化へ

高崎商科大生ら
名称やデザイン

畑那須地区で採水した天然水。初回は500リットル入りペットボトル4万本を製造する予定で、3万本を市販し、1万本は町の災害備蓄品にする。9月の発売を目指す。

さまざまな人に親しんでもらえる商品に育てたいとの考えから、町が主導するのではなく、幅広い人が関わる委員会を立ち上げた。今回の会議には42人が参加。町の資源を売り出す意義や目的を共有したほか、学生の市場調査を基にした販売戦略が披露された。

茂原荘一町長は「神様の山として知られる稲倉山の水源に光を当て、新しい魅力を創出する企画に期待している」と述べた。デザイン案の一つに携わった同大2年の中嶋正菜さん(19)は「自分のアイディアが町の発展に役立てば、とても光栄」と話した。

(細井啓三)